社会を明るくする運動
～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

長野県作文コンテスト表彰

問 住民福祉課 社会福祉係 ☎62-9144

町内の小中学校から出品された125点のうち、県入選が1名、町長賞を7名、教育長賞を5名の方が受賞しました。

県入選	「他喜力」	本郷小学校6年	青木（あおき） 功大（こうだい）
町長賞	人との関わりを大切にする	富士見小学校6年	桑原（くわはら） 汐理（しおり）
町長賞	一人一人が「幸せ」と思える世界へ	富士見小学校6年	千田（ちだ） 亜美（あみ）
町長賞	悲しむ人のいない世界は、えがおの世界	富士見小学校6年	楢木（ならき） 悠祐（ゆうすけ）
町長賞	理不じんな死が無い未来へ	富士見小学校6年	島田（しまだ） 憲人（けんと）
町長賞	「社会を明るくするために」	本郷小学校6年	井内（いうち） 美音（みお）
町長賞	「勇気」をだして	境小学校6年	飯田（いいだ） ちとせ
町長賞	犯罪のない社会を	富士見中学校1年	山口（やまぐち） 明歩（あきほ）
教育長賞	社会を明るくするために	富士見小学校6年	細川（ほそかわ） 結里晏（ゆりあ）
教育長賞	社会を明るくするために	本郷小学校6年	五味（ごみ） 愛凛（ありん）
教育長賞	「ありがとうございます」	本郷小学校6年	和田（わだ） 咲菜（さきな）
教育長賞	再出発	境小学校6年	小林（こばやし） 裕太郎（ゆうたろう）
教育長賞	犯罪のない社会づくり	富士見中学校2年	藤森（ふじもり） 太郎（たろう）

「他喜力」

本郷小学校6年　青木　功大

きっかけは、夏休みの宿題でした。国語の自由課題の中の一つに「社会を明るくする運動作文コンクール」がありました。

「社会を明るくする運動って何だろう？」と思いました。そこで、お母さんのけい帯かお父さんのパソコンを使って調べてみました。すると、社会を明るくする運動とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動ということがわかりました。犯罪か非行といってもぼくにとっては、テレビドラマみたいな遠い世界のように感じました。でもそれぞれの立場においてとあったので、ぼくなりにいろいろ思いをめぐらせているうちにふと思い出したことがありました。それは、小学校に講演にきてくださった二〇一〇バンクーバーパラリンピックアイススレッジホッケー日本代表銀メダリスト馬島誠選手のことです。馬島さんのお話は、直接、犯罪や非行防止などに、関係する内容ではありませんでしたが、何かとても大切な所で、根っこがつながっているような気がしました。社会を明るくするためのヒントになると思いました。

馬島さんは、大学生の時に大きな事故にあいクルマイスの生活を送るようになりました。その中で、氷上の格闘技と呼ばれるアイススレッジホッケーに出会いました。もともと武道家だった馬島さんは、厳しいトレーニングを乗りこえ、ついにパラリンピックの日本代表選手に選ばれました。その厳しいトレーニングを乗り越えるための心の支えになった考えが、後に馬島さんが「他喜力」と名付けた考えです。

「他喜力」とは、他の人を喜ばせる力です。馬島さんが本当に苦しい時一番がんばれたのは、自分のために何かするのではなく、自分を支えてくれた家族や仲間の事を思って力を発揮した時だそうです。家族に喜んでもらいたい仲間を喜ばせたいという気もちが、最高のパフォーマンスの原動力になったそうです。

その講演会の後、ぼくの小学校では、他喜力を高める運動を始めました。どうやったら友達を喜ばせることができるのか、みんなで考え行動する運動です。例えば、友達を喜ばせることができたら葉っぱの形をしたカードにその内容を書いて、大きな木の絵にはっていき、他喜力の木と名付け全校で取り組みました。

犯罪や非行は、本人も家族もきずつきます。ひ害者がいる場合は、とうぜんひ害者もきずつきます。だれも喜びません。みんなが、「他喜力」を高め、自分の身近な人を喜ばせるために、行動したらどうでしょうか？

他人を喜ばせるための行動をした人は、他人の事を思うことができるので、犯罪や非行にはしることは、ないと思います。他人の事を思うことが社会を明るくする運動の第一歩だとぼくは思います。